

Doc 187

(軍 用 譯)

附屬第十二號

印度支那軍司令官ト在印度支那日本陸海軍
代表トノ間ニ於テ締結サレタル協定

本協定ハ左ノ件ニ關ス

- (一) 東京州ニ於ケル數個ノ飛行場ノ使用
- (二) 日本軍若干兵力ノ陸屯
- (三) 場合ニ依ル日本軍ノ東京州通過
- (四) 日本先頭部隊ノ入國
- (一) 數個ノ飛行場ノ使用

日本空軍ハ左ノ飛行場ヲ使用スルコトヲ得

「ジャラム」

「ラオカイ」或ハ「フリーランション」

「フートウ」

日本空軍ハ九月四日ノ協定ニ依リ定メラレタル諸
條件ニ從ヒ右諸飛行場ノ設備ヲ行フコトヲ得

右諸飛行場ノ警備ニ任ズル兵力ハ日佛當局者間ノ
合意ニ依リ決定セラルベク右兵力ハ其ノ任務達成
上必要ナル最少限度ニ限定セラルモノトス

- (二) 日本軍若干兵力ノ陸屯

左ノ任務ヲ有スル日本諸部隊ノ兵力ハ日佛軍事當
局者間ニ於ケル共同合意ノ後決定セラルベキモノ
トス

- (イ) 第一項記載ノ諸飛行場ノ警備
- (ロ) 右諸飛行場ノ使用ハ日本飛行隊ニ屬スル飛行人

Doc 189

82

員及整備人員

(ハ) 左ノモノニ對スル補給品ノ輸送及護衛

第一項記載ノ諸飛行基地及支那印支國境附近ノ

支那領土内ニ於テ目下作戰中ノ日本部隊

(ニ) 海防港ノ通過輸送及ビ同地方ニ施設セラルル病院ノ運営

右ノ兵力ハ前記諸任務達成上必要限度ニ制限セラルルモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ六千人ヲ超ヘザルモノトス

右ノ兵力ノ駐屯區域ハ日佛軍事當局者間ノ共同合意ニヨリ決定セラルルモノトス

日佛兩參謀部間ノ合意ニ依リ定メラレタル最少限度ニ限定セラレタル前記兵力中ノ一部ハ諸飛行場ニ直接隣接スル部落ヲ利用スルコトヲ得

但シ「ハノイ」市ハ此ノ限りニ非ズ

日本軍ノ司令部又ハ部隊ハ「ハノイ」ニ定着シ又ハ同市ヲ通過セザルモノトス但シ兩參謀部間ノ連絡ヲ計ル爲ニ必要ナル將校ハ此ノ限りニ非ズ

諸飛行場内ニ於ケル日本飛行部隊及其ノ整備部隊ノ施設ハ日本軍當局ニ於テ負擔スルモノトス

海防市ハ日佛兩參謀部間ノ合意ニ依リ定メラルル條件ニ依リ上陸地點トシテ利用セラルルモノトス如何ナル場合ニ於テモ軍艦ハ「ドウソン」ー「アボワン」ヲ追ヌル線ヨリ六海里以内ニ近接セザル

モノトス

水雷艇級ヲ超エザル軍艦一隻ハ海防港内ニ碇泊ス
ルコトヲ得

(三) 日本軍ノ東京州通過

日本軍司令官ガ東京州北方國境ヨリ發足シテ地上
兵力ニヨリ攻撃作戰ヲ行ハントスル場合（該司令
官ハ目下之ヲ考慮シアラズ）若クハ海防港ヨリノ
乗船ヲ必要トスベキ部隊ノ交代行動ヲ爲サントス
ル場合ニハ倭軍司令官ノ決定セル數條ノ交通路ハ
作戰ノ必要ニ從ヒ日本軍ニヨリ利用セラレ得ルモ
ノトス

右ノ輸送ノ實施方法ハ千九百四十年九月四日署名
ノ協定基礎事項中ニ定メアル條件ニヨリ規定セラ
ルモノトス

日本通過部隊ノ兵力ハ必要度ニ應ジ追テ決定セラ
ルベキモノトス

然レドモ通過部隊及ビ第二項記述ノ部隊ノ全兵力
ハ千九百四十年九月四日調印ノ協定基礎事項ニ依
リ定メラレタル數ヲ超ユルヲ得ザルモノトス

(四) 日本先頭部隊ノ入國

九月二十二日二十二時ハ日本當局ニ依リ嚴守セラ
ルベキモノナルニ鑑ミ部隊搭載ノ第一船ハ右期日
ニ海防ニ入港スルコトヲ得

然レドモ上陸部隊ノ上陸條件及ビ駐屯地點ヘノ移動條件ニ關スル特別協定ガ成立セザル限り部隊ハ其ノ船舶ヨリ下船セズ又其他ノ輸送船ハ港内ニ入ラザルモノトス

(五) 日本軍ノ東京州通過輸送

目下支那印支國境附近ニ在ル日本部隊ハ日本當局ノ要求ニ基キ海防港乗船ノ爲印度支那領土ヲ通過シテ輸送セラレ得ルモノトス
此部隊ノ輸送ニハ詳細ナル研究ヲ必要トスルヲ以テ兩參謀部間ニ於ケル特別協定ヲ要ス
此協定ガ成立セザル限り何レノ日本軍隊モ印度支那國境ヲ擅スザルモノトス

(六) 一般事項

本協定ニ掲ケアル諸規定事項ヲ除キ千九百四十年九月四日署名ノ協定差違事項ハ全部効力ヲ有スルコト勿論ナリ
兩參謀部ハ本協定ノ實施方法ヲ定ムル爲ニ爾今當時相連絡スルモノトス

千九百四十年九月二十二日

在「ハノイ」西原少尉

「マルタン」將官

62

規約第十七條一項ニ基ク理事會ノ招請狀ニ對スル
九月二十二日附帝國政府回答

千九百三十八年九月十九日附貴電ヲ以テ通達アリ
タル國際聯盟理事會ノ帝國政府ニ對スル規約第十七
條第一項ニ基ク招請ヲ接受セリ
帝國政府ハ國際聯盟規約ノ意見スルカ如キ方法ニ
依リ今次日支紛争ノ公正妥當ナル解決ヲ見出シ得
サルヘキヲ固ク信スルモノニシテ右帝國政府ノ方
針ハ已ニ屢々之ヲ明ニシタルカ今回理事會ノ招請
モ亦右ノ理由ニ依リ遺憾ナラ之ヲ受理スルヲ得サ
ル旨回答スルノ光榮ヲ有ス

昭和十三年九月二十二日

日本帝國外務大臣 宇垣 一成

國際聯盟事務總長 アザノール 殿